

伊予弁



想定外に身を委ねる

朝倉雪江 | 宇和島市・ウェブ開発者

先日、NPOの事務局長になった。以前ボランティア講座で知り合った方からのご相談で、ITの活用支援にはじまり、新規NPOの立ち上げに参画してほしいとの依頼を受けて。「私でお役に立つなら」と、毎度ながら軽い気持ちで引き受けた。

無論「軽い気持ち＝適当」というわけではない。具体的にどのような仕事を任されるのか、どこまで応えられそうかなど最低限の下調べを行い、最後は「まあ、なんとかなる」との直感で決断した。

これまでもさまざまな選択をしてきて、後悔した記憶はほとんどない。面白そうなことと面倒になりそうなことの見極めにたけているのか、はたまた選んだことを全肯定しているだけか。

数年前に訪れたバングラデシュからの帰途、時差を忘れて飛行機に乗りそびれたことがある。チケットの買い直しで余分な出費はかさむわ、空港で丸1日以上過ごす羽目になるわ、踏んだり蹴ったり。そのまま帰ったのでは旅の記憶が残念な思いで上書きされると懸念し、帰国後の大阪から愛媛までヒッチハイクで移動することに決めた。おかげで多少の労力と時間を費やしたものの、道中いろんな人との出会いがあり「刺激的な体験ができた」とポジティブな出来事に変えられた。

さて、新たに取り組みをはじめたNPO、今後どのように展開していけるだろうか。

「なせば成る」精神の下、今回も正しい選択をしたと振り返る日を思い浮かべ、今また新しいスタートラインに立つ。